皆が笑顔になる、「フェアトレード」便り №11　田中惣一商店 2023.10.1

＊＊＊「フェアトレード」とは、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することで、生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「取引のしくみ」の事です。＊＊＊
（一方的な寄付ではない持続可能な取り組みです）

＊＊＊「エシカル消費」人・社会・環境に配慮した消費活動。「フェアトレード」商品を買うこともそのひとつ。大切な人に贈るギフトはサスティナブルなものに。

＜館山フェアトレードタウン推進委員会としての活動＞9 月の取組をご報告しますね！！

「和綿の種育てよう、Ｔシャツまで作ろうプロジェクト」・・・今年、３年目。皆様から、和綿のふわふわ綿を順次、届けて頂いています。ありがとうございます。去年は種付き綿、約１３kg位、集まりました。楽しみですね。小学校で育てている和綿も見学に行きましたが、子供たちがお水をやったり、お花や綿の様子を楽しみに観察していると先生からご報告がありました。今年も、11 月頃、ワークショップが出来ればと思います。楽しみにして下さいね。去年の和綿とオーガニックコットンで作った着心地良いＴシャツ、販売しています。

＊フェアトレードとコラボのビーチクリーン（たてやまビーチクリーンネットワークさん）（まるごみさん）も随時、参加者募集中です。参加できる方は、お声かけして下さいね。

・・・9 月 27 日には、熊本から、日本で初めて、世界で１０００番目で「フェアトレードタウン」に貢献した「明石祥子さん」が来館。午前、明石祥子さん、千葉商科大学の滝澤教授、任意団体千葉市フェアートレードタウン推進グループ山野さん、とご一緒に館山市を表敬訪問。午後からは、「お話会」。石井副市長、市会議員１０名、市職員２名、委員会２名、その他１名、合計１８名参加。明石さんの苦難（熊本地震で店と自宅全壊、その後、再建した自宅と店が火災で全焼、全身骨折、打撲など）にも負けず、「ハチドリのように、出来ることをする」その姿勢に感銘を受けました。また、フェアートレードタウンへの道のり、なってから、お話頂きました。（熊本地震の時、明石さんのお店の片隅に残っていた段ボールの商品を同じフェアトレードの日本全国のお店で手分けして、販売、助け合いました。フェアトレードをしていることで、同じ仲間、同じ思いが通じたのですね。当店でも協力しましたので、その恩返しということで、明石さんの館山訪問が今回、６回目です。感謝！！）

まだ、日本では６都市です。（熊本市 2011、名古屋市 2015、逗子市 2016、浜松市 2017、札幌市 2019、いなべ市 2019）・・・他にも、「フェアトレードタウン」を目指して、各地各市（千葉市・鎌倉市など）で、活発な動きがみられます。

＊＊＊「フェアトレードタウン運動」とは・・・「まちぐるみ」つまり、まちの行政、企業・商店、市民団体などが一体となって、フェアトレードの輪を広げることで、不利な立場、弱い立場に置かれた途上国の生産者の人たちの自立や環境保全に貢献しようとする運動です。

「フェアトレードタウン基準」世界基準 5 つ＋日本オリジナルとして「地域活性化への貢献」があります。格差が拡大する一方の日本においてもフェアな社会・経済・環境を築こうという私たちの願いを反映したものです。＊＊「思いやりのある町」を目指しましょう！！